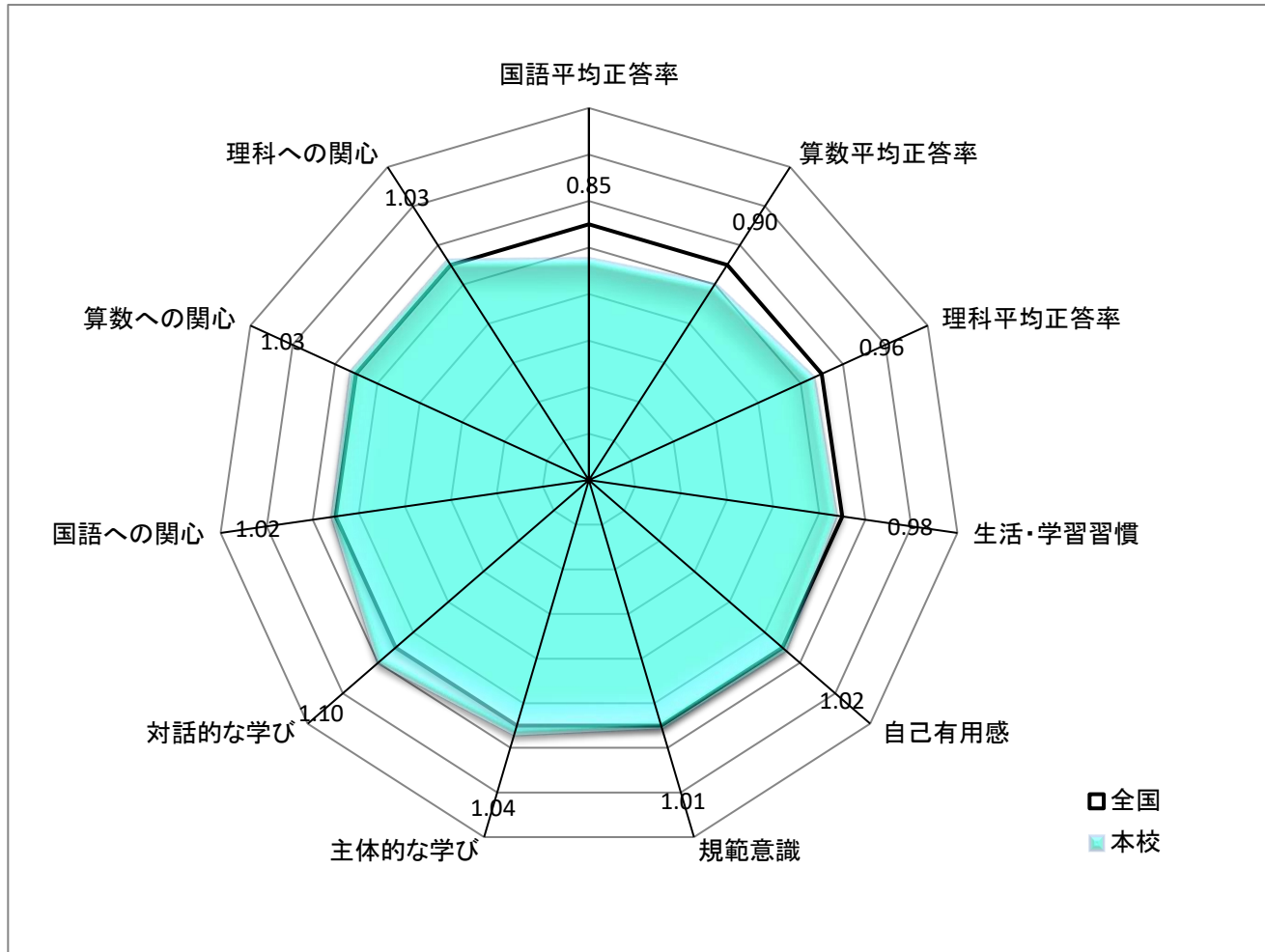


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語では、東京都や全国平均正答率より下回っているが、途上人物の相互関係を捉える問題や話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心を捉える問題では、大きく全国よりも上回っている。しかし、漢字を文の中で正しく使う問題には課題がある。

算数では、東京都や全国平均正答率より下回っているが、目的に合った数の処理の仕方を考察する力やグラフから必要な情報を読み取る力は大きく全国よりも上回っている。割合や図形の問題に関しては課題が残る。

理科では、東京都や全国平均正答率より下回っているもののそこまで大きな差はみられない。むしろ、実験で得た結果を問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述する問題では、大きく上回っていた。

主体的・対話的な学びに対して、肯定的に捉えている児童が多く、東京都や全国と比較しても大きく上回っている。

《授業改善のポイント》

国語では、「題材の設定、情報の収集、内容の検討」、「構成の検討」、「考えの形成、記述」の指導事項を観点として、文や文章を推敲する機会を多く設ける。

国語でも算数でも、基礎的な言葉や漢字の理解、四則計算の理解が高まるように、繰り返し取り組む時間を設ける。また、ICTを活用して、児童の特性に合わせた取り組みができるようにアプリケーションなどを活用して、個別最適な学びとなるように配慮していく。

算数では、問題解決場面を多く取り入れた授業を設定し、既習事項を活用して、数学的に表現・処理できるようにする。また、図や式などを用いて関係を表現できるように指導する機会を多く設定する。

主体的・対話的な授業を生かして、児童が自ら学ぶとする姿を引き出した後、どのように単元が終わるまでその意欲的な姿勢を通すことができるようにするか単元を貫いた授業構成を大切にする。また、話し合ってから終わりではなく、伝え合う内容の質を向上させるような個人思考の時間をしっかりと確保する。

《チャートの特徴》

- 全体を見ると、やや全国の平均値を下回っている項目もあるのだが、おおよそ全国平均と変わらない。
- 国語の平均正答率は、全国の平均正答率に対して9.6ポイント下回っている。
- 算数の平均正答率は、全国の平均正答率に対して6.2ポイント下回っている。
- 理科の平均正答率は、全国の平均正答率に対して2.3ポイント下回っている。
- 生活・学習習慣、肯定的に回答している児童の割合が全国平均よりもやや低い。
- 主体的な学び、対話的な学びについて全国平均よりも大きく上回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」という質問に対する肯定的な回答が全校を下回る。規則正しい生活や睡眠の大切さについて児童に指導を行い、家庭にも啓発をしていく。SNSの使い方について、家の人と約束をしたことを守っているかの質問に対しても、やや全国よりも守っているという回答が高かったため、今後もさらに向上していくように学校で指導を行い、家庭にも啓発していく。